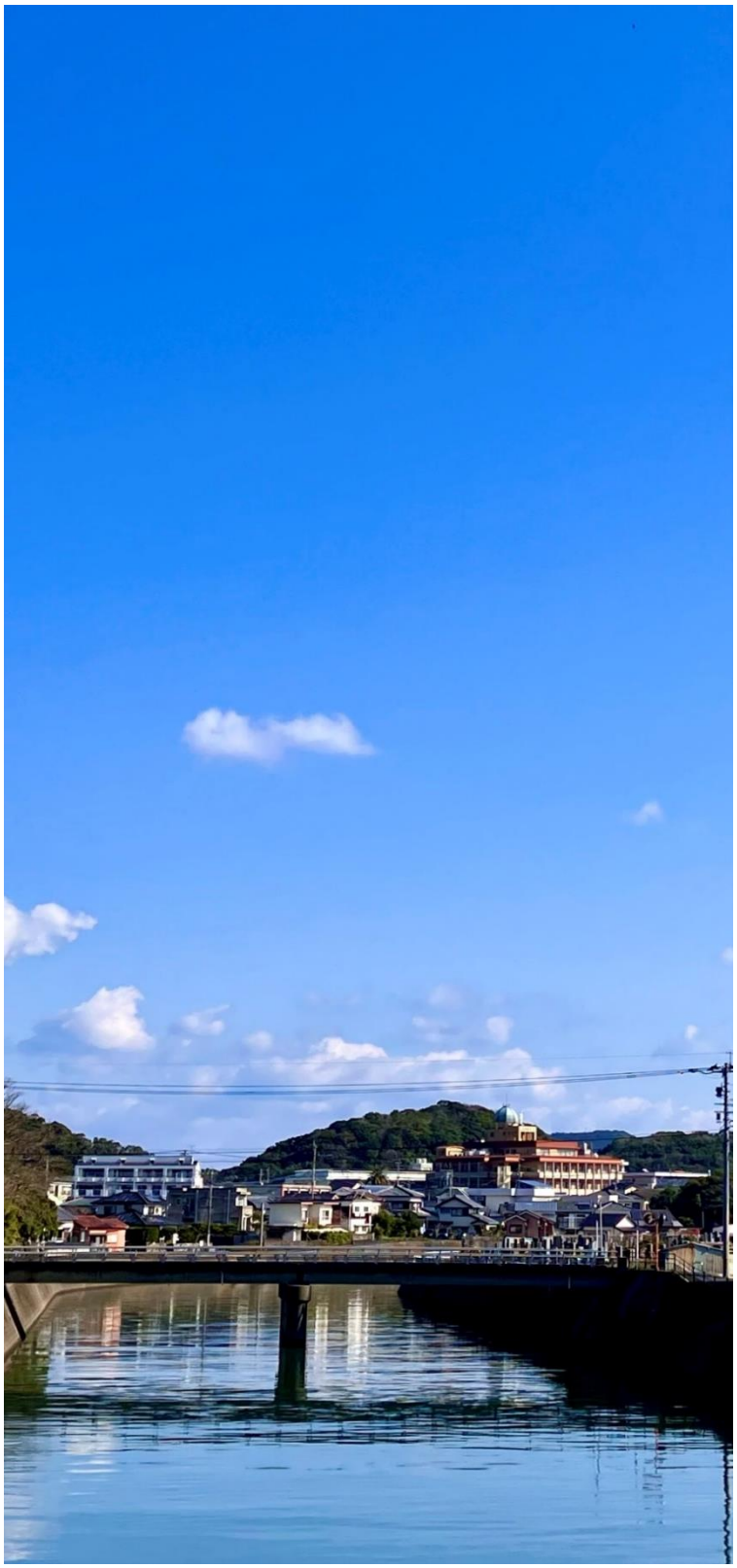
NEWSLETTER

マリアの風 web

2024年

4



『カトリック生活』の休刊

院長　山中淳子

「ドン・ボスコ社」というカトリックの出版社から発行されていた『カトリック生活』という月刊誌がありました。B５版、ページ数 44 ページ、お値段 220 円。コンパクトでお手軽感のある雑誌でしたが、2024 年３月号をもって休刊となりました。1928 年の発刊から 97 年の歴史のある雑誌でした。毎月、興味をそそる特集が組まれ、また聖書の解説やエッセイ、映画紹介、静寂な自然風景の写真に載せた詩などなど、趣の異なる連載が多数あり、格調高く、心を豊かにしてくれる雑誌でしたのでとても残念に感じています。３月号の後に最終号として「感謝号」が出され、これまで連載を執筆してこられた方々のお別れ文集でした。残念だと感じているのは読者だけではなく、寄稿者の方々もどなたも惜しんでいました。

現代は紙媒体の書物は苦境にあり、カトリック雑誌に限らず、休刊や廃刊に追い込まれている雑誌や新聞など多数あります。カトリックの唯一の新聞「カトリック新

聞」も 2025 年 3 月に休刊することが決まりました。要因はデジタルメディアの発達によるものでしょう。数日前の新聞には学校の教科書もデジタル化されると書いていました。紙がいいのか、デジタルがいいのか、悩ましいところです。

　時代の変化は早く、標準が次々と変化していきます。インターネット上にはたくさんの情報があり、日々増えています。良い雑誌がなくなっても情報は溢れており、その中から情報の取捨選択を今まで以上にしていかなければならないのだと思います。時代について行っていない感がいつもありますが、ついていかざるを得ないのです。ついていけるように頑張らなければ･･･。

院内トピックス

マスクの正しい装着で感染予防を

　新型コロナウイルス感染症などで着用する N95 マスク。マスクのフィルター性能は高くても、顔にフィットしていないと、期待される防護性能が得られません。

　今回、専用の機械をレンタルし、マスクが顔に隙間なく密着しているかを評価するテスト、フィットテストを行う機会がありました。各個人に合ったマスクの選択を行い、正しい装着方法を意識することができました。

主はまことに復活されました　アレルヤ

３月 31 日、病院内で復活祭のミサをおこなっていただきました。福江教会の稲田神父様は、「復活したイエスが弟子たちをガリラヤへ招かれたように、わたしたちも日常の中でイエスに招かれ、出会う喜びを約束されています」と話されました。久しぶりのミサ、うれしい再会もあり、喜びに包まれた時間でした。

「わたしは今年の復活祭のミサに与ることができなかった･･･」復活祭の数日前からつぶやいていた方がおられました。やっと本当の復活祭のミサに与ることができ、本人の喜びもひとしおです。ミサからの帰り道、一緒に付き添ってくれたスタッフにそのことを話してくれました。

まごころひろばへの
ご支援とご協力に感謝いたします。

必要としている誰かに
届きますように！

３月３日（日）まごころひろばを開催しました。寒い中ではありましたが、たくさんの方が立ち寄ってくださり、皆さまから提供していただいた品物を、必要な方へ届けることができました。一緒に開催している奥浦慈恵院みんな食堂では、温かいぜんざいと子どもたちへのカップケーキが振る舞われ、たくさんの笑顔に包まれました。昨年から始まったまごころひろばは、おかげさまで６回目を数え，来年以降も活動を継続する予定です。今後ともよろしくお願いします。

＊まごころひろば…家にある物品を広く募集し、必要な方に無料で譲渡する活動。お告げのマリア修道会の新しい取り組みで、下五島地区のシスターたちが運営し、年に３回程度のペースで開催している。募金で購入した食品・日用品、シスター手作りのジャムや畑の野菜など季節のものも無料で提供。共同開催の奥浦慈恵院みんな食堂の温かい食べ物も喜ばれている。

聖マリア病院の屋上から眺める 五島市の早春の風物詩　鬼岳の山焼き

３年に一度の鬼岳の山焼き。天候不良のため予定日よりも１週間遅れで実施されました。写真を撮るために病院の階段を駆け上がると、エレベーターの扉が開き、何やら深刻な表情で慌てて屋上に出るM先生と出会いました。山火事だと思って様子を見に来たとの事。確かに事情を知らなければ、炎に包まれた鬼岳は、噴火なのか山火事なのかと疑いたくなる形相です。M先生は恒例の山焼きと聞いて安心して再びエレベーターで帰って行かれました。

５月の連休になれば、新緑に覆われたあの山の上で、凧揚げが行われることでしょう。黒く焼けた山肌が、時が来れば新芽を生えさせることを知っているからこそ、燃える山に不安を抱くことなく、期待をもって自然界の再生を待つことできます。知っているからこその安心感と、知らないことで生まれる不安。主の受難と復活にも通ずるのかもしれません。

まだ風が冷たい早春の夕方、昇る煙が夕日に照らされていく様子をしばらく眺めました。

▼久留米聖マリア病院の理学療法士内田干城さんは、3 月末で出向の期間を終えられ久留米に戻られました。内田さんに 1 年間の五島での生活について語っていただきました。

五島での 1 年間を振り返って

理学療法士　内田干城

五島聖マリア病院での勤務は 2 回目でしたが、今回は滞在期間が長かったこともあり、鬼岳や高浜、大瀬崎灯台に加え、富江や岐宿、三井楽方面まで足を延ばし、1 年間を通して五島市内の観光名所や自然を堪能することができました。

職場では、勤務当初よりいろいろな方が声をかけくださり、仕事上でも助けていただく機会が多くありました。スタッフの皆さんは、とても気さくで話しやすく、勤務後や休日でも食事に連れて行って下さるなど、とてもよくしていただきました。また、病院内にとどまらず、院外でも多くの人たちと知り合い、祭りやイベントを楽しむことができました。

最後に行った箕岳での花見を兼ねたバーベキューでは、病院スタッフの皆さんと、筋肉痛になりながら体を動かし、美味しい物をたくさん食べて、楽しいひと時を過ごせました。桜の花がまだ咲いていなかったのは残念でしたが、箕岳の頂上からの眺めは壮観で、よい思い出です。その他にも、夏の夕焼けマラソンの参加やスキューバダイビング、釣り、ミニ四駆など、今まで触れてこなかった新しいことにもチャレンジし、この1年間は私の人生においても特別な時間だったと感じています。

五島の人々と接し、それぞれの人が持つ独自の人生経験や価値観を共有する中で、新しい発見や考え方を知ることができ、自分自身の成長にもつながったのではないかと思います。短い時間でしたが関わっていただいた皆さん、本当にありがとうございました。

朝早く起きて魚釣り

満月の夜には団子を持って、月見へ

お知らせ

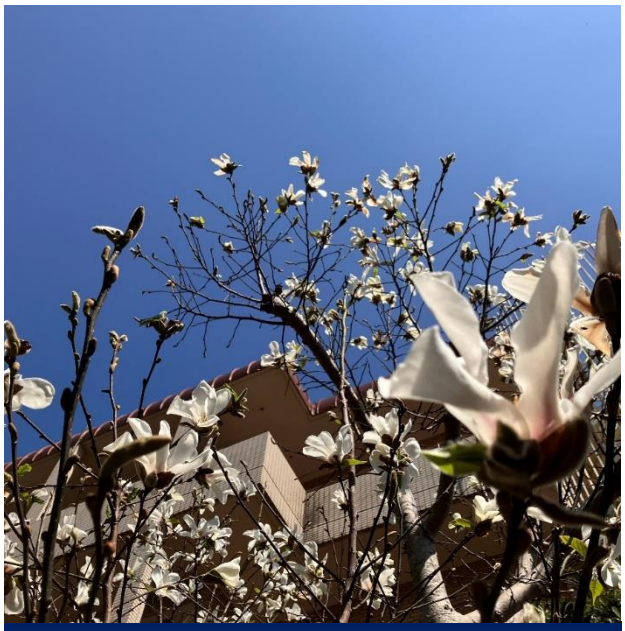
4月の行事

4月1日　　新年度はじめ

4月2日～30日　職員健康診断

重要　エレベーター改修工事についてのお知らせ

エレベーターの改修工事につき、工事期間中（4月6日～4月22日）病院内のエレベーターが使用できなくなります。面会や洗濯物の入れ替えの際も階段を使用しての昇降となり、工事に伴う騒音や振動等でご迷惑をおかけいたします。大変なご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



まるで、空に羽ばたくように咲くこぶしの花に小さな感動を覚えました。春がまぶしいです。

編集者より

不安定な天候が続く今春ですが、主の復活の喜びのうちに新年度が始まりました。ドイツの詩人ツェーザル・フライシュレンが残した詩があります。「唇に歌を持て／心に太陽を持て」　印象的な言葉で、文学や映画のタイトルに用いられることも多いようです。現実はよいことばかりとはいきませんし、気力も体力も失ってしまいそうな時もありますが、心の奥には何にも動じない喜びの灯を持ち続けていたいと思う復活節です。

マリアの風のWeb版を開始して3年が過ぎましたが、この度、デザインを一新しました。聖マリア病院に関係する人たちや、聖マリア病院を知らない人にも折々の話題を届けられればと思っています。今後ともよろしくお願いします。